

福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年8月20日現在
(専技情報より抜粋)

◇早期水稻（夢つくし、コシヒカリ）◇

4月中下旬植の「夢つくし」「コシヒカリ」の成熟期は平年に比べやや早く、収穫は8月10日頃から始まりましたが、8月11日からの大雨の影響で進んでいません。

穂数は平年並み～やや少なく、台風9号と8月中旬の大雨により、一部で倒伏して穂発芽の発生も見られます。

収量の低下は少ないと思われませんが、品質低下が懸念されます。

好天になり次第、落水し、収穫を行いましょう。

収穫後は直ちに、適切な乾燥を行いましょう。

乾燥調製施設は、高水分籾の荷受けが予想されるため、集荷体制を整えましょう。

◇普通期水稻（夢つくし、元気つくし、ヒビカリなど）◇

出穂期は、6月10日植「夢つくし」が8月6日、6月中旬植「元気つくし」が8月14～17日で、平年より2～3日程度早いです。

8月11日からの大雨により、一部で冠水の被害が発生しました。

トビイロウンカ、コブノメイガの発生は、平年より少ないですが、葉いもちの発生は平年並みです。

出穂期に降雨が多かった「夢つくし」や「元気つくし」は、穂いもちの発生が懸念されます。

「夢つくし」の収穫は、平年並みからやや早い9月中旬が最盛期になる見込みです。

間断かん水を徹底し、根の活力維持に努めましょう。

台風通過時は、深水管理としましょう。

降雨が多いため、穂いもち対策を徹底しましょう。

中生以降の品種では、トビイロウンカ、コブノメイガの発生に留意し、適期に対策を行いましょう。

無人ヘリコプター防除は、散布計画を再構築しましょう。

◇大豆◇

播種は、平年に比べて早く、7月末にはほぼ終了しました。

7月下旬播種においては、播種後の乾燥により一部で発芽不良が発生しました。

7月までの高温乾燥の影響により生育量はやや少ないです。

8月11日からの大雨により浸冠水が県南部地域を中心に発生し、冠水時間が長い場合は、枯死も見られます。

冠水が無いほ場においても、湿害による葉の黄化等が見られます。

降雨により雑草の発生が多くなり、帰化アサガオ類などの難防除雑草が多発したほ場も見られます。

開花期は平年並みで、6月下旬播種で8月14日頃、7月10日播種で8月19日頃、7月25日播種で、8月31日頃と予想されます。

降雨が多いため、本暗渠の栓を開け、うね溝と排水溝の整備を行い、排水対策を徹底しましょう。

開花期までに中耕・培土を行いましょう。

生育量が少なく、葉の黄化が見られるほ場では、追肥により生育を回復させましょう。

雑草・病虫害は発生に応じ、対策を徹底しましょう。

◇アスパラガス◇

夏芽の出荷は、平年より10日程度早い7月上旬をピークに、10月下旬まで出荷が続く見込みです。

7月の高温により草勢が低下しており細茎傾向です。曲がりや穂先の開きなどの障害茎が発生しました。8月11日からの大雨により県南地域を中心に浸冠水被害が発生しました。

病虫害について、草勢低下に伴い斑点性病害が発生しました。チョウ目類、ハダニ類、アザミウマ類の発生は平年並みです。

浸冠水したほ場では、液肥の施用や葉面散布により草勢維持に努めましょう。

病虫害対策を徹底しましょう。

◇イチゴ苗◇

7月は梅雨明けが例年より早く好天が続いたため、高温・かん水過多に伴う根傷みが一部で発生したものの、生育は概ね順調でした。8月11日からの大雨では県南地域を中心に苗の浸冠水被害が発生するとともに、断続的な降雨が続いたため、全体としては平年に比べ軟弱気味で、やや充実不足の苗となっています。早期作型は8月中旬から低温処理が始まっていますが、大雨の影響で処理開始を数日遅らせるなどの対応が一部でとられています。定植準備は、大雨の影響で全体としては平年より遅くなるとみられますが、定植開始は平年どおり9月10日以降となる見込みです。

病虫害では、炭疽病や、一部で疫病、輪斑病の発生がみられます。ハダニ類の発

生は全般的に平年より多いです。

大雨の影響等による生育不良や肥効低下の状況に応じて苗の生育回復に努めましょう。苗の生育によっては作型を見直しましょう。

ほ場の排水や乾燥に努め、適湿な条件でのほ場準備を行いましょ。

病害虫の対策を徹底しましょ。炭疽病の発生が見られる場合は、発病株を早期に除去するなど、初期段階の対策を徹底しましょ。

◇温州ミカン◇

着果量は、極早生が平年並み～やや多く、早生が平年並み、普通が平年並み～やや少ないです。

高温乾燥の影響により、8月上旬時点の早生種の果実糖度は前年・平年より1%程度以上高く、酸度は前年・平年より低いです。

また、早生種の果実肥大は、前年・平年並み～やや小さく推移しています。

今後、高温による日焼け果や肥大不足、裂果などが懸念されるため、日焼け果対策も考慮した仕上げ摘果とともに、果実肥大や品質に応じた土壌水分管理に努めましょ。

日焼け果対策は、極早生種を中心に、天なり果等の摘果を行いましょ。

仕上げ摘果は、肥大や品質推移を参考に、着果量の多い園から行いましょ。

シートマルチ栽培は、肥大や品質推移を参考にシートの開閉、かん水の実施を行いましょ。

黒点病、ハダニ類、カメムシ等の対策を徹底しましょ。

◇ナシ◇

露地「幸水」の出荷期間は、開始が7月下旬、終了が8月上旬と前年より7～10日早いです。

果実肥大は、開花の前進化、結果良好、管理作業の遅れ等の影響でやや鈍かったです。

出荷果実は、平年よりやや小さく、前年より大きく、収量は増加の見込みです。

果実糖度は、梅雨時期の降水量が少なかったことから、概ね平年並となりました。病害虫は、黒星病、ヤガ、シンクイの被害が散見されました。

露地「豊水」の出荷は、前年より早い8月盆前から開始し、現在出荷中です。

収穫は、病害虫被害果、日焼け果、水浸果に留意し、果実品質等の状況をみながら、適期に行いましょ。

収穫後の果実は、直射日光を避け、品温上昇を防ぐ対策を講じましょ。

今後、ヤガ、シンクイ、カメムシの発生状況に留意し、早めの対策を行いましょ。

◇トルコギキョウ◇

夏季出荷作型（6～9月）の出荷が続いています。出荷量は、前年よりも単価が高く販売金額が増加しています。過去5年平均よりも単価は高くなったが、出荷本数が少なく販売金額はやや少ないです。

秋季出荷作型（10～11月出荷）の定植は8月上～中旬で概ね終了しました。定植後の生育は、高温の影響で抽台が早く、着花節位が低いです。切り花長の確保が課題です。

秋季出荷作型では定植後、抽台開始まで十分なかん水を行いましょう。

定植後は、晴天時でも過度な遮光は避け、1週間以内で遮光資材を除去しましょう。

夜蛾類の対策を徹底しましょう。

◇肉用牛◇

和牛去勢の枝肉単価は、前年比123%、過去5年平均比104%とコロナ過の影響で低調だった前年に比べて高値を推移しています。肉食需要の継続や堅調な輸出推移の中、出荷頭数は前年を下回り、季節需要やイベント等が影響しました。省令価格も同様の理由で前年比108%、過去5年平均比119%と前年より高値を推移しています。

浸水被害があった場合は、衛生管理を徹底しましょう。濡れて品質劣化した飼料は給与しないようにしましょう。

ストレスと暑熱の対策を兼ねてビタミン・ミネラルを通常時期より増強しましょう。